

訂正版

地下貯水槽の浮き上がりの状況について

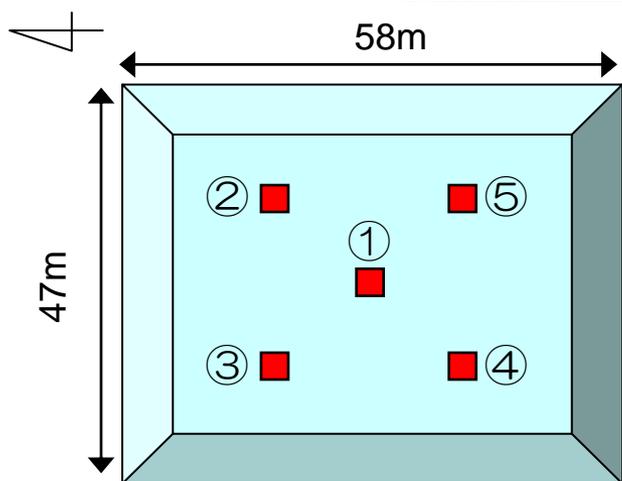
平成25年8月13日
東京電力株式会社



東京電力

No.3地下貯水槽天端の浮き上がり量について

- 天端中央を中心に、約30m×約20mの範囲で、最大約40cm程度の浮き上がりが発生していることが8月10日（土）に確認された。



単位：mm

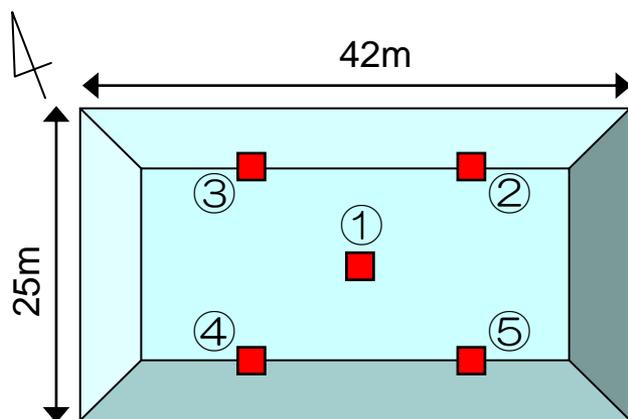
	8/10	8/11		8/12	
		1回目	2回目	1回目	2回目
① 中央	400	412	383	399	373
② 北東側	160	165	152	157	144
③ 北西側	280	286	259	270	249
④ 南西側	340	350	327	338	316
⑤ 南東側	200	203	185	192	176

※

※方位の取り違いによる記載の誤りがあったため訂正
(平成25年8月15日訂正)

No.4地下貯水槽の浮き上がりについて

- 上面中央を中心に、約10m×約10mの範囲で、浮き上がりが発生していることが、8月10日（土）に確認された（8月11日測量で最大約15cm）



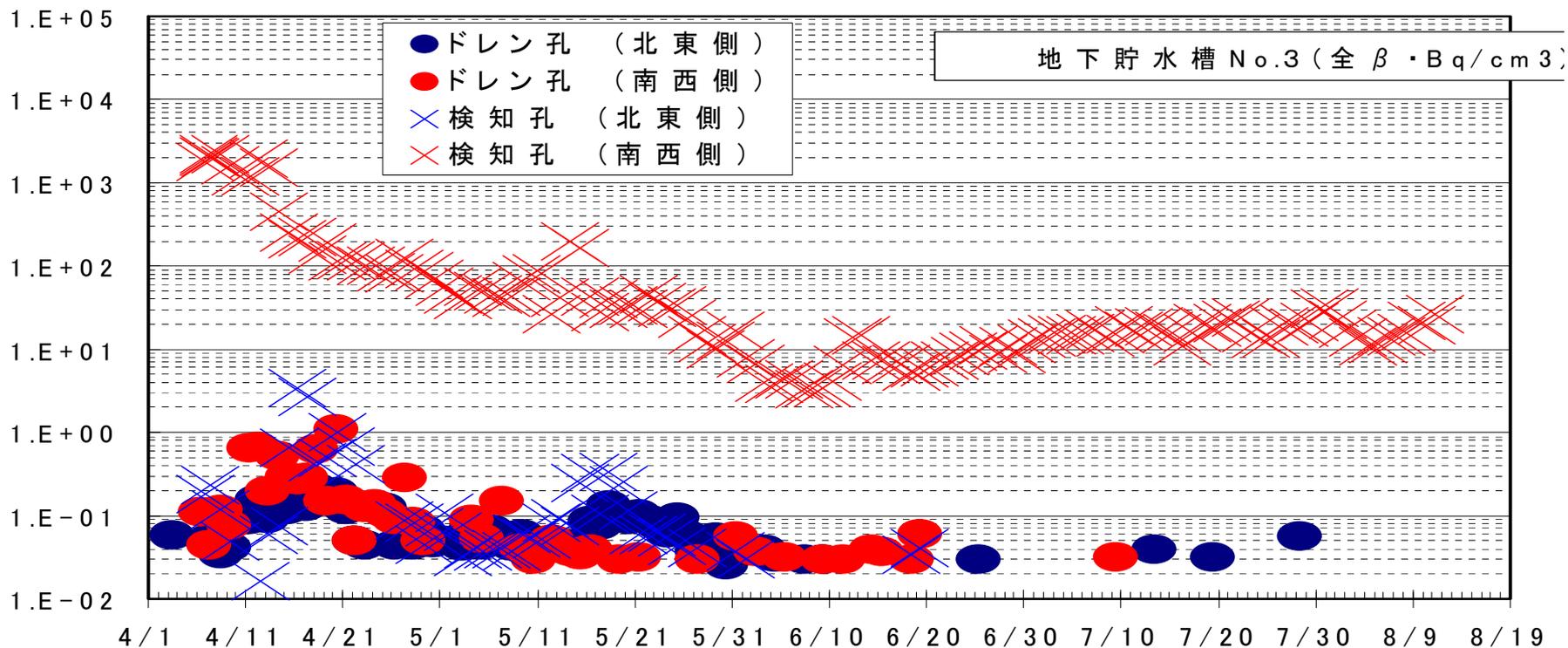
単位：mm

	8/11	8/12
① 中央	153	157
② 北東側	42	44
③ 北西側	35	38
④ 南西側	-7	-5
⑤ 南東側	33	35

No.3地下貯水槽ドレン孔・検知孔の分析結果

- 7月下旬以降のドレン孔・検知孔の全 β の分析結果に有意な変化はなく、浮き上がりによる汚染水の漏洩はみとめられない

No.3地下貯水槽ドレン孔・検知孔の全 β 測定結果

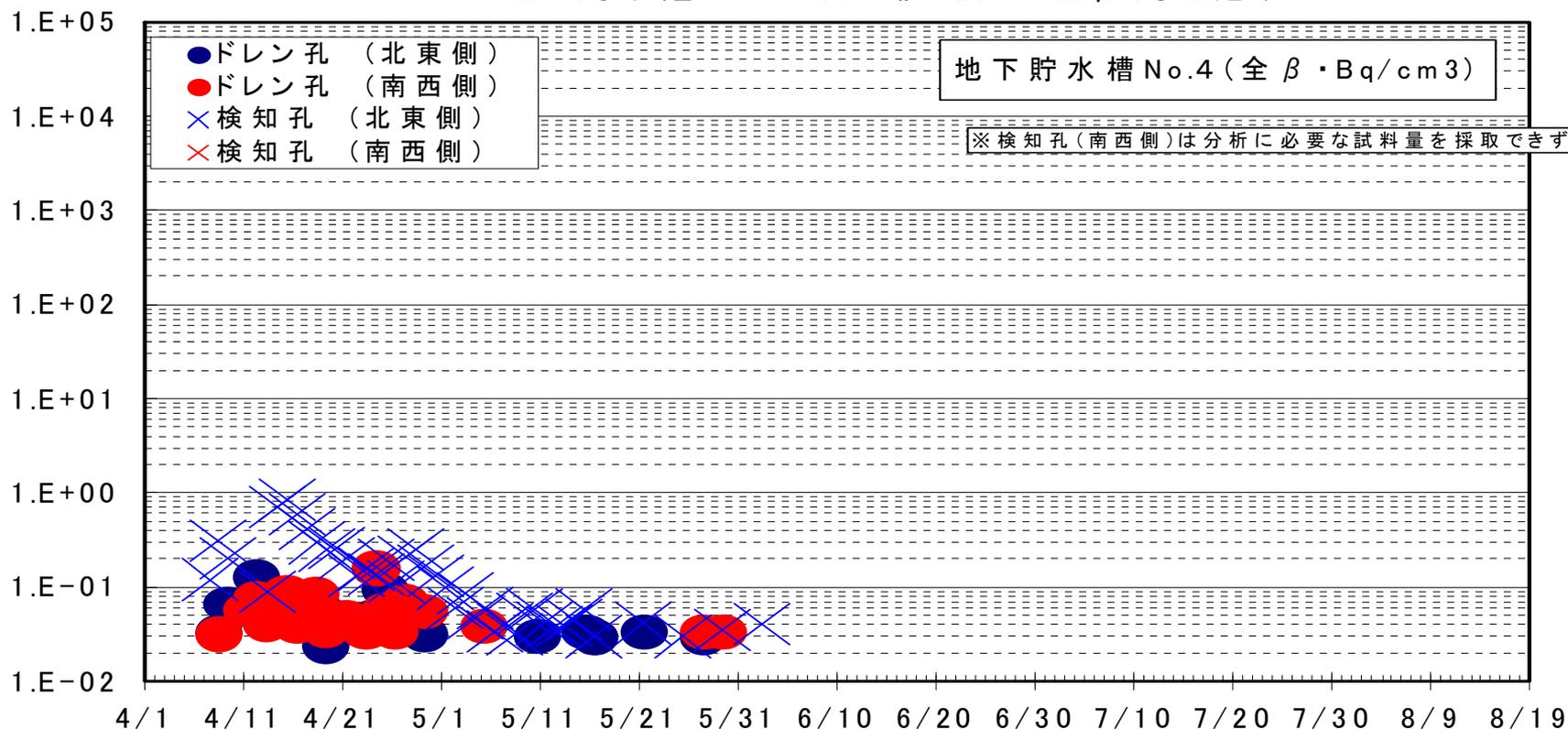


※検出限界値： $2.6\sim 3.2 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$

No.4地下貯水槽ドレン孔・検知孔の分析結果

- 7月下旬以降のドレン孔・検知孔の全βの分析結果に有意な変化はなく、浮き上がりによる汚染水の漏洩はみとめられない

No.4地下貯水槽ドレン孔・検知孔の全β測定結果



※6/2以降、ドレン孔・検知孔ともにND (検出限界値: $2.6 \sim 3.2 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$)

今後の対応策について

現在の対応状況

浮き上がり状況の管理のため、以下の対応を現在実施している

- No.1～4地下貯水槽の上面（5カ所）の計測（1回／日）

今後の対応策

- 地下貯水槽の浮き上がりの進展を防止するため、準備が整い次第、地下貯水槽上面に砂利等の上載荷重の追加（50cm程度）を行うこととする
- 地下貯水槽No.3およびNo.4については上記対策を行うこととし、その他の貯水槽については、早急に必要性を整理する

緊急時の対応策

- ゲリラ降雨等により、地下水位の急な上昇や浮き上がりの急な進展が確認された場合は、以下の対策を緊急的に実施する
 - 地下貯水槽底盤の揚圧力を低減させるため、全βが検知されていないドレン孔から地下水を回収し、散水車にて、貯水槽No.5/No.7に移送する
 - ・ポンプの回収可能量　：　約200m³（＝10m³/h × 24h）
 - ※回収量は、散水車（4m³/台、2台）の運搬能力による
- また、G6エリアタンクの空き容量（約500m³）に移送することも検討中